

New Integrated Medical Lectures

「消化器病学」第4版

東京慈恵会医科大学教授・内科 戸田剛太郎 編集
 東京大学教授・外科 大原 毅

金沢大学がん研究所外科部門

磨 伊 正 義

この度、NIM Lectures series の1つとして、戸田剛太郎、大原毅両教授の編集による「消化器病学」第4版が、医学書院から出版された。

最近の医学の進歩は著しいものがあり、なかでも分子生物学、特に遺伝子工学、サイトカイン、癌抑制遺伝子をはじめとする様々な生理活性物質の発見とその同定は、各種疾患の病態に迫るものであり、教科書の少なからぬ部分が書き換えられようとしている。消化器病の分野も例外でない。

一般に教科書というのは基本的な知識の整理を中心に、あくまで確立された疾病論を中心に記述すべきであり、新知見や研究の紹介はすべきでないとされている。しかし、進歩の目覚ましい基礎医学の臨床分野への導入は、各疾患の病態を知るうえで不可欠の要因となっている。消化器学の分野においても根本的な変革と大改訂を迫られることになったゆえんと編者も述べているごとくである。

編者の戸田・大原両教授は序文の中で本書の位置付けを次のように述べている。①従来の教科書的な記述を避け、各疾患の病態生理を理解したうえでの診断・治療への展開をまとめ、②これまで基礎医学と臨床医学

とが不連続な形で捉えられがちな傾向にあったが、各疾患の病態生理の理解を深めるために基礎医学研究の成果も踏まえ記述するよう心掛けた、としている。実際本書では、各分野の最新の知見は Advanced Lecture として紹介されている。③最近消化器疾患の治療の分野では内科・外科の守備範囲が不明瞭になりつつあるが、診療科の壁を越えた編集方式を採用されている。実際本書を拝読すると、最先端の研究成果とその解説が随所に見られ、理解を深めるうえで極めて有意義であり、本書に対する編者、執筆者の思い入れが伝わってくるようである。

本書の構成を見ると、消化器領域全般にわたり Lecture 方式を採用し、全部で38項目の章に分かれている。各々の Lecture のタイトルも従来の教科書的な記述ではなく、学生への臨床講義やセミナー方式を採用しており、読んでいても楽しい。その Lecture のいくつかを紹介すると、腹痛の発生機構と疾患(急性腹症)、消化管免疫、ポリープと結腸癌、ビリルビン代謝と黄疸の分類・成立、ウイルス肝炎とそのマーカー、アルコール代謝と肝、薬物と肝(薬物性肝障害)、胆汁排泄機構とその異常、脾の腫瘍および形成異常など

魅力的な NIM Lecture が続く。もちろん消化器内科医・外科医に必要な不可欠な各疾患のエッセンスの記載がなされており、教科書性格と最新の知見とがうまく調和している。前述した Advanced Lecture は各項目ごとに挿入されており、その数も100以上にわたり、1~2頁を割いて紹介されている。

このように本書は従来の教科書にはないユニークな書として完成しており、編者らが意図した“考える臨床医学”が結実したすばらしい書である。学生や研修医向けの教科書として十分な内容を備えているだけでなく、実際本書を拝読すると各消化器疾患に最先端の知識が網羅されており、消化器病専門医にとっても有益な書になっている。このように他に類を見ないユニークな NIM Lectures 「消化器病学」を企画、執筆された諸先生方には賛辞を送りたい。ぜひ、学生、研修医のみならず、消化器専門医の諸先生方にも本書を一読されることをお勧めしたい。

●B5 頁722 図274 写真162
 原色図22 1995 定価9,064
 円(税込) 〒450

医学書院 刊(☎03-3817-5657)